讀賣新聞　（第3種郵便物認可）

名古屋市 65歳以上に接種開始

会場 感染防止厳重に

新型コロナウイルスワクチンの高齢者向け接種が各地で本格化する中、名古屋市でも12日、全16区で65歳以上の市民への接種が始まった。この日から県内が緊急事態宣言の対象に加わったこともあり、会場では厳重な感染防止策が取られる中で作業が進められた。

新型コロナ

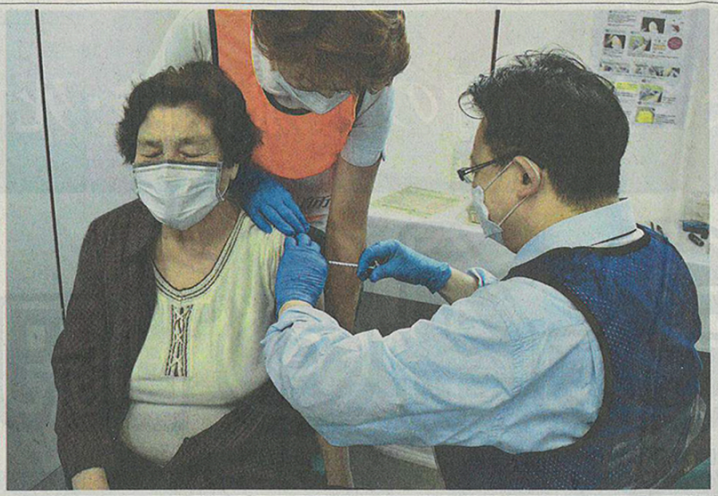
240人が予約していた東区役所では、接種が始まった午後、高齢者が続々と訪れ、手指を消毒した後、検温や予診を経て接種に臨んだ。土屋典子さん(84)は「感染が怖くて最近はスポーツジム通いなども控えていたが、ようやく打ってもらえた。2回目の接種まであと少しの辛抱」と話した。

会場では予診を行う医師の前にアクリル板が設置され、椅子やペンも一人が使う度に消毒。案内役の職員もマスクはもちろん手袋もはめる念の入れようで、区の担当者は「ここで感染を広げるわけにはいかない」と気を引き締めていた。

同市の接種予約を巡っては、コールセンターの電話や予約サイトがつながりにくくなり、各区役所に申し込み希望者が殺到。市が応援の職員を派遣するなど、対応に追われてきた。

この日接種した、松井清二さん(86)は「200回電話した末、区役所に助けてもらいようやく予約できた。これから予約する人のためにも市は対応を改善してほしい」と注文をつけた。

市は6月中旬に始まる、7月以降の接種受け付けに備え、近く電話回線を200回線に増設。予約と他の問い合わせの窓口を分けてスムーズに電話がつながるようにする予定だ。今月下旬には地域のクリニックなどでの個別接種も順次始まるため、市の担当者は「かかりつけ医などでの接種も検討してほしい」と呼びかけている。



左腕にワクチン接種を受ける女性（東区役所で）＝中村亜貴撮影

大規模会場 24日開設

名古屋空港、藤田医科大病院

一方、県は接種を速やかに進めるため、大規模な集団接種会場を整備する。すでに県営名古屋空港ターミナルビル（豊山町）と藤田医科大病院（豊明市）で開設が決まり、24日から米モデルナ製ワクチンの接種を始める。

空港ターミナルビルでは1日2000人程度の接種を予定。県がんセンター病院が運営を担い、他の県立病院や名古屋大医学部付属病院などからも医師や看護師の応援を受ける。接種対象者の多い名古屋市のほか、春日井、小牧、豊山の各市町の住民が対象になる。

藤田医科大病院では1日1000人程度に接種する。対象は名古屋、刈谷、大府、豊明、日進、東郷の各市町の住民。予約は両会場とも各市町で受け付ける。会場へのシャトルバス運行も計画しているという。

また、名古屋市も独自に瑞穂区のパロマ瑞穂スタジアムを大規模接種会場として活用する考えで、7～9月の3か月間で、延べ10万5000人の接種を目指すとしている。